

イオンチアーズ自然観察会

森の仕組みを学ぼう

内島くに子（佐倉市）

日 時：2023年11月25日（土）12:30～14:00

場 所：富田さとにわ耕園（千葉市若葉区）

参加者：子ども58名、大人31名、計89名

担当指導員：小川、尾澤、荘子、戸村、松尾、山下、内島

イオンチアーズ(小1～中3の環境活動をする子どもたち)が訪れ、畑で人参やネギを収穫した後耕園内の観察へと出発。冒頭イオン環境財団の方から森の役割・森と生き物のかかわりなどの話があり、その話に合わせ周囲のドングリの木を見ながら太陽と葉の役割を考えてもらった。

この日はぐっと気温が下がったので虫の観察はあきらめていたが、さすが子どもたちの目はするどい。ギシギシの葉をめくるうちに、次から次へと虫を発見。テントウムシの幼虫・蛹・成虫とセットで見つけ、テントウムシが幼虫でも成虫でも冬越しするという様子をじかに見る事ができた。他にオンブバッタ・コバネイナゴ・ウスバキトンボ等々。カツラの樹皮をめくってチビフサヤスデを発見した班もあった。寒くて見つからないと思っていた虫がなぜこの場所にはたくさんいるのか、気温と虫の関係に気づいてもらった。

あたりにはロゼットが沢山あり、5年生の女の子がロゼットの仕組みを話してくれた。ギシギシやスイバは成長した姿を想像しづらいので写真を見てもらった。タンポポの成長した姿はロゼットとさほど変わらないので、子どもたちのほうから「タンポポのロゼットだ！」と声が上がった。

途中、シラカシの実が敷き詰めたように落ちていたので、ドングリ独楽を作って遊んだ。学校で作るのとは違って、舗装の上でドングリの頭をこすって柔らかくしてから楊枝を刺すだけ。見本が成功し子どもたちから歓声上がる。自分も作ってみると持ち帰る子も多くいた。容器には他にもお気に入りの自然の欠片が詰め込まれ、「森のお宝」と名付けた。最初に見たのがクヌギだったので、殻斗の違いにも気づいたようだった。

ホコリタケを発見した班があり、ホコリタケが胞子を飛ばしているところと一緒に観察させてもらった。先に観察したウメノキゴケは菌類と藻類の共生、引っ付き虫やサザンカ・ツバキなどを観察しながら歩いたが、子孫を残すための植物の色々な方法に気づいてもらえただろうか。

池ではカモが飛んだり潜ったりする姿に子どもたちは歓声を上げ、カルガモだけでなく、マガモ、ホシハジロ等の名前が上がりカモにも興味を持っていることが分かった。

富田さとにわ耕園には祠があり、その伝説を子どもたちは真剣に聞いていた。最後にヌルデシロアブラムシの虫こぶを観察し、虫こぶから出られなかったら生きていけない虫の世界も厳しいものだという事を感じてくれたようだ。

子どもたちが収穫した人参とネギの食べる部分についてクイズを出した。小学3年生で習う人参については全員正解、ネギはヒント付きで正解だった。

私たちスタッフも子どもたちを見送った後収穫させてもらい、帰宅してから早速調理して新鮮な自然の恵みに感謝した楽しい一日だった。